# ラオスからタイへの未成年出稼ぎ労働者の研究

平成 16 年度入学
派遣先国：ラオス
森一代

キーワード：　ラオス，タイ，出稼ぎ，未成年，メコン河

**対象とする問題の概要**

インドシナ半島の中央に位置するラオスでは，1980 年代後半より不法にラオスを出国して隣国タイで働く出稼ぎ労働者が急増している。2004 年のタイ政府の統計によると，タイには 17 万人強のラオス人労働者が登録されている。ラオスには 16 の県があり，うち 9 県はメコン河に面してタイと国境を接している。地理的な近接性に加えて，ラオスの国語であるラオス語とタイ語の言語の壁がほとんどないこと，ラオス人がテレビをはじめとするタイのメディアに日常的に親しんでいることなどの理由により，タイはラオスからの出稼ぎ先として圧倒的に大きな割合を占めている。しかもタイとラオスの経済格差には大きな隔たりがあり，タイ人はラオス人の 5 倍以上の所得を得ている。こうした条件を背景として出稼ぎが加速するにつれて, 18 歳未満の未成年ラオス人の人身売買や労働搾取といった出稼ぎにかかわる問題が，国連児童基金（UNICEF）やメコン河流域の人身取引.に関する国連プログラム（UNIAP）によって指摘されるようになった。

**サワンナケート県の市場にて。タイ製品が多く見られる**

**研究目的**

UNICEF や UNIAP などの国際機関による報告書は，人身売買や労働搾取の悲惨さを強調している。しかしそれほど悲惨であるにも関わらず，なぜ出稼ぎに歯止めがかからなかったのか。ラオス政府は阻止しようとしなかったのか。先行研究ではラオスからタイへの出稼ぎを後押しする要因とその相関関係において充分な分析がなされているとは言い難い。そこで本研究では 2000 年以降，ラオスからタイへの未成年者の出稼ぎが増加した背景を，ラオス政府による啓発活動をはじめとする諸活動の報告書をもとに明らかにすることを目

カンムアン県都タケークにて

的としている。ラオス側の送り出し事情を解明することによって，タイにおける周辺国からの不法出稼ぎ労働者問題の理解する一助になると考える。

**フィールドワークから得られた知見について**

今回私はラオスの首都ビエンチャンにおいて，約 3 か月の文献調査をおこなった。受入機関は ILO-IPEC（国際労働機関児童労働撤廃計画）ラオス事務局であった。事務局では各県の労働社会福祉局から送られてくるタイへの出稼ぎに関する報告書を取りまとめていた。文献調査では 1996 年～2006 年に刊行された各県の出稼ぎ概況等の報告書を収集した。

報告書を収集すると同時に，政府がタイへの出稼ぎにどのような対策を講じたのかということを，対国際機関，対タイ，省庁間から明らかにしていった。その結果ラオス政府が具体的な施策を講じるようになったのは 2000 年の国際機関との提携によるものであった。タイへの合法的な出稼ぎの枠組みづくりが始まったのはさらにその後であり，未成年の出稼ぎは事実上野放しになっていたことが判明した。

ラオス新年。後ろはメコン河で対岸はタイのシー・チェンマイ

フィールドワーク後半は，特に出稼ぎが多いとされるカンムアン県，サワンナケート県，チャンパーサック県の三県に絞って，ラオス政府が UNIAP から援助を受け 2000 年から 2003 年にかけて同県で実施した啓発活動プロジェクトの報告書，労働移動調査の報告書を収集・分析した。その結果 2000 年時点で，送迎・送金サービスなどを基調とした円滑な出稼ぎのためのネットワークがブローカーによって既に構築されており，啓発活動をもってしても政府が出稼ぎを抑制するのは事実上困難であったことが明らかになった。報告書からは，「危険」で「過酷」な既存の出稼ぎのイメージには括りきれない，出稼ぎの「手軽さ」や「安心感」を読み取ることができた。

ILO-IPEC ラオス事務局のスタッフはもちろんのこと，前述の労働移動調査の編集に携わった ILO バンコク事務局のスタッフ，UNDP（国連開発計画）スタッフ，カンムアン県庁，カンムアン労働社会福祉局職員にはプロジェクトの詳細や実態を知るうえで貴重なアドバイスをいただいた。

**今後の展開・反省点**

本フィールドワークではいくつかやり残したことがある。限界のひとつとしては，直接出稼ぎ当事者に接触しなかったため，啓発プロジェクトが具体的にどれほど出稼ぎ抑制に効果があったのかということを明らかにすることができなかった。これからの課題としたい。

今後の展開としては出稼ぎの送出国であるラオスだけでなく，受け入れ側のタイからラオス人未成年労働者の位置づけを探りたい。タイでどのような職業に従事しているのか，なぜタイでの出稼ぎを希望したのか，タイでの収入をどのような用途に充てているのか。またラオスからの出稼ぎ希望者を呼び寄せる同郷者のネットワークがどのようなかたちで存在し，機能しているのかを当事者とのインタビューから明らかにしたい。